

地を掩護する如く配備す。

(2) 使用兵力を左の如く予定す。

南西諸島方面

X 1 混成連隊 (徳之島) — 奄美大島要塞部隊  
— 歩兵 3 大基幹

X 2 混成旅団 (沖縄島) — 中城湾要塞部隊  
— 歩兵 6 大基幹

内 1 大を大東島地区に派遣す

X 3 混成旅団 (石垣島、宮古島) — 船浮要塞部隊  
— 歩兵 4 大基幹

X 4 高射砲連隊 — 4 中基幹

台湾方面

Y 1 師 団

Y 2 混成旅団 (花蓮港、台東) — 花蓮港警備隊  
— 歩兵 6 大基幹

(3) 速かに大東島地区に一部の兵力を派遣し海軍の防衛及び飛行場整備に協力す。

(4) 台湾軍は適時しパタン島に一部の兵力を派遣しこれを防衛すると共に所要に応じ同地飛行場を整備す。

3 陸海軍中央協定

19年5月2日陸海軍の中央協定が大本営指示として示された。

その方針要領等は次のようにある。

(1) 総則

本協定は南西諸島台湾及び伊豆諸島方面の作戦に関し準拠すべき事項を協定す。

本協定以外の事項に関してはし国内防衛に関する陸海軍任務分担協定に拠る。

(2) 作戦方針

陸海軍緊密なる協同の下に速かに要地の防衛を強化し敵の来攻に方りては極力航空兵力並に艦艇を以て之を先制撃滅すると共に地上防備兵力を以て之を撃滅し以て国土を保全す。

(3) 作戦準備一般の要領

陸海軍は緊密に協同し左の如く作戦準備の促進を期す。

(イ) 先ず敵の奇襲に備うると共に情勢の変転に方り敵の攻略企図を撃破し得るの態勢を整う。全般的作戦準備は支障を生ぜしめざる限り19年7月を目途として之を概成す。

(ロ) 右作戦準備は航空作戦準備に最重点を置くと共に艦隊根拠地及び海上交通保護に関する事項を成るべく優先的に処理し爾他の事項は之に従属とす。

4 防衛の分担

防衛の分担は南西諸島（大東島を含む）、伊豆諸島及び「バタン」諸島（バタン島以北）の陸上防備を陸軍担任とするの外「国内防衛に関する陸海軍任務分担協定」に拠る。

5 指揮関係

(イ) 陸海軍協同とす

(ロ) 各島嶼に於ける陸上作戦に関しては所在前任指揮官所在陸上防備部隊（航空及び防空部隊を除く）を統一指揮す。

6 航空

(イ) 敵の来攻に方りては陸海軍航空部隊協同して之を撃破す。其の使用兵力及び指揮関係は別に定む。

(ロ) 航空基地の整備担任及び使用区分を左の如く定む。但し作戦の必要に際しては相互使用することを得。

(1) 南西諸島 海軍担任（主要）

陸軍担任（主要）	奄美大島
徳之島	喜界島
沖縄島（那覇飛行場を除く）	沖縄島那覇飛行場
宮古島陸軍飛行場	宮古島海軍飛行場
石垣島陸軍飛行場	石垣島海軍飛行場
	南大東島

(2) 台湾

西岸地区は現使用（設定）区分の通とし東岸地区は左に拠る。

陸軍担任（主用） 海軍担任（主用）

宜 蓮 台東旧飛行場

花蓮港

台東新飛行場

バタン島

(3) 伊豆諸島

陸軍担任（主用） 海軍担任（主用）

大島 八丈島

新島

(イ) 航空用兵器及び資材の補給集積は各自軍に於て実施するも作戦上の必要に応じ、相互協議の上他軍のものを一時融通使用することを得。

7 補給、輸送及び衛生

補給、輸送及び患者の収療後送に関しては陸海軍各自体に対するものを担任し相互に援助するものとする。

8 海上護衛

重要輸送船には極力直接護衛を付するものとする。

9 報道

別命ある迄大本营に於て統一して行う。

4 南西諸島方面海軍部隊の概要

東西諸島方面に於て海軍は才32軍の創設直後の4月10日才4海上護衛隊沖繩根拠地隊等を編成し、防備、海上護衛、対潜掃蕩等の強化を図った。

昭和19年4月、5月、6月における東西諸島方面における海軍の軍隊区分及び主要任務は挿表7、8、9のようである。

5 才32軍の展開

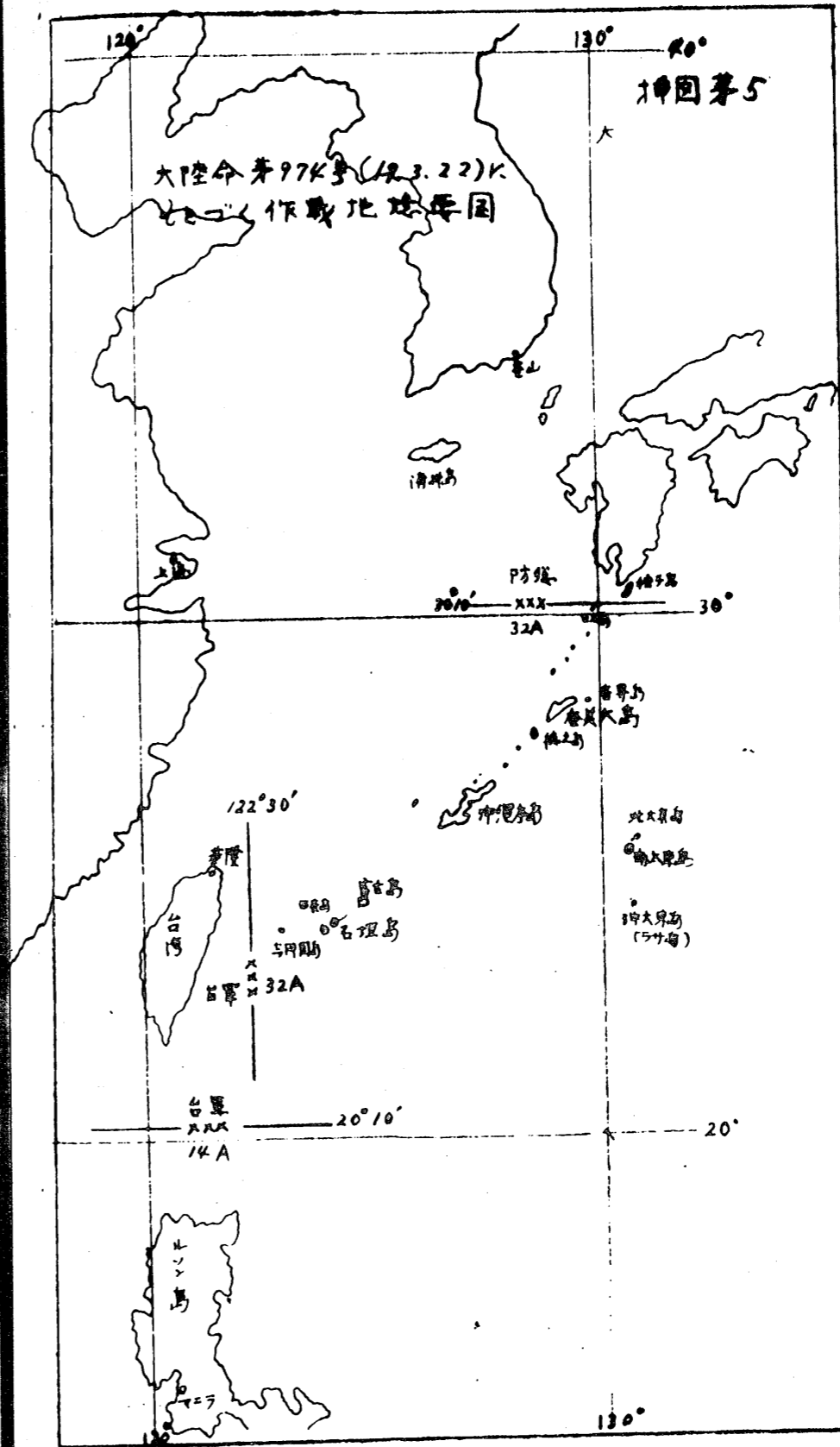
(1) 大東島の配兵

(2) 航空基地の設定(挿図才3参照)

(3) 44MBs, 45MBs, 21MRs等の配備

5月下旬における才32軍の配備 挿図才6のようである。

44MBs, 45MBs の遭難--19.6.29



表第7 昭和19年4月 軍隊区分並に各部隊の主要任務(海軍)

区分	指揮官	兵力	主要任務
海軍方面根拠地隊	大島防備隊司令 第四海上護航隊司令官	大島防備隊 特設監視艇 長門丸、大東丸、竹東丸、竜井丸、陸水丸、第3号報国丸、曾文丸 特設掃海艇 第1拓南丸、第16昭南丸 特設監視艇 甲 第1号海洋丸、乙 有功丸、北洋丸、大斗丸 海上護航用漁船隊 平射砲台 カネテ崎 特設防備所 甲 カネテ崎、乙 曾津高崎、丙 大浦、喜茂、鹿崎、島岡崎 特設見張所 丙 沖大東島、丁 口永良部島、宝島、沖永良部島	1. 担任区域の海上及陸上防備並に警戒 2. 船団護航 3. 対潜掃蕩
		特設掃海艇 第43掃海隊 特設監視艇 甲 第7利丸、岡丸、姫島丸、5とせ丸、乙 新浦丸、宮水丸、第7博多丸、八長運丸、丙 第51博多丸、第6博多丸、大東丸、第3号大東丸、第3号南産丸、第5大成丸、第13長運丸 海上護航用漁船隊 特設見張所 乙 迎戸崎、喜屋武、西養、久米島、宮古島、石垣島、子那回島	
航空海上護航隊	沖繩海軍航空隊司令官	沖繩海軍航空隊本隊 鎮海海軍航空隊沖繩派遣隊 第901海軍航空隊 沖繩 古仁屋、石垣、宮古、喜界島、大東島	1. 船団護航 2. 対潜哨戒並に警戒 3. 敵航空機の襲撃
		第453航空隊 第453海軍航空隊 真鶴、燕、臨新井崎、駆潜49、高津丸 鹿児島海上交通保護部 沖繩海上交通保護部	1. 沖繩方面の直接護航及び 2. 陸軍機補給 3. 担任区域の他部隊護航協力

(参考注: 第4海上護航隊戦時日誌より採す)

挿表第8 昭和19年5月6日 軍隊区分並に各部隊の主要任務 (海軍)

区	分	指揮官	兵力	主要任務	
第四海上護衛隊	海上護衛部隊		新井崎 真鶴 掃15 燕 駆潜49 富津丸 鹿兒島海上交通保護部 那覇海上交通保護部	1. 沖縄航路の 直接護衛 2. 対潜哨戒 3. 補給 4. 担任区域内 他部隊の 護衛協力	
	航空部隊	沖繩部隊	沖繩海軍 航空隊 司令官	沖繩海軍 小隊隊 哨戒隊 航空隊本隊 馬天隊 水偵隊	1. 船団(船)護衛 2. 対潜哨戒 3. 敵潛艦殲滅 4. 敵航空機 撃滅
		古仁屋部隊		鎮海海軍航空隊 沖繩派遣隊 艦攻	
		石垣		第901 " " 中攻	
		宮古		沖繩 " 古仁屋派遣隊 水偵	
		喜界島		" " 石垣 " 哨戒	
		南大東島		" " 宮古 " 中繩海軍 航空隊司令官	
		指宿		" " 喜界島 " 所定兵力	
協力部隊	南西諸島海面防衛部隊	大島部隊 司令官 沖繩部隊 司令官	配属隊 艦艇 護衛用漁船隊 特設見張所 特設防衛所 砲台	1. 担任区域の 海上及陸上防 備並哨戒 2. 船団護衛 3. 敵潜掃蕩 撃滅	
	航空隊	佐世保海軍航空隊	佐世保海軍航空隊司令官	1. 船団護衛 2. 対潜哨戒 並に空襲	
		大村	大村 " " 各指揮官所定航空機		
		鹿屋	鹿屋 " " "		
	博多	博多 " " "			

(筆者注: 第4海上護衛隊戦時日誌より抜粋)

押表第9

海軍主要私員表

筆者注(1)第4海上護征隊戦時日誌より抜す  
(2)本表は19年4月のものであるが5月6月には特別の変化はないようである

第4海上護征隊

司令官	少将 新葉亭造 (410番位)
参謀 (全般)	中佐 阿部徳馬 (〃〃)
参謀 (通信関係)	大尉 福山寛雄 (〃〃)
参謀兼(機関工作)	〃 新宅恭二 (420〃)
司令部付兼(航空関係)	〃 山形頼夫
主計長兼(副官会計整理)	主大尉 城山 勇 (427〃)
司令部付(首席参謀補佐)	大尉 山崎東代一 (423)

沖縄方面根拠地隊

司令官(兼)	少将 新葉亭造 (410番位)
参謀(兼)(全般)	中佐 阿部徳馬 (〃〃)
参謀(兼)(通信関係)	大尉 福山寛雄 (〃〃)
参謀 (機関工作)	〃 新宅恭二 (420〃)
軍医長 (医務衛生)	医中佐 信夫主税 (〃〃)
主計長(副官会計整理)	主大尉 城山 勇 (427〃)

挿図第6



球作命甲第9号要約(筆者)

注. 本要約は192A作命より推定したものである  
 \*印は19.5.20未到着部隊を示す

◎ 軍は海軍と協同し北緯30°10'より東経122°30'に亘る南西諸島の防衛に任じ、之を作戰準備を強化促進せんとす  
 作戰準備の重点は航空作戰準備とす

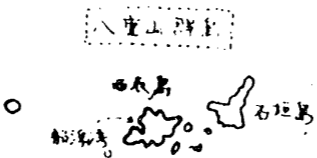
先島守備隊

長官崎少将

- x 45MBs
- 特設警備隊 第209中隊
- " 第210 "
- " 第226 "
- " 第227 "
- 重砲兵第8連隊
- 第205飛行場大隊
- 第x飛行場中隊
- x 第128飛行場設定隊
- 軍医隊 第8中隊
- 船医隊 陸軍病院
- x 富古島 "

◎ 東経126°より同122°30'に亘る先島先島諸島の防衛に富古島、石垣島の航空基地の設定

先島諸島



沖繩守備隊

長 鈴木少将

- x 44MBs
- 特設警備隊 第223中隊
- " 第224 "
- " 第225 "
- 重砲兵第7連隊
- ◎ 与論島(合計)以南東経126°に亘る沖繩群島の防衛

126°  
 沖繩守備隊  
 先島守備隊

富古群島

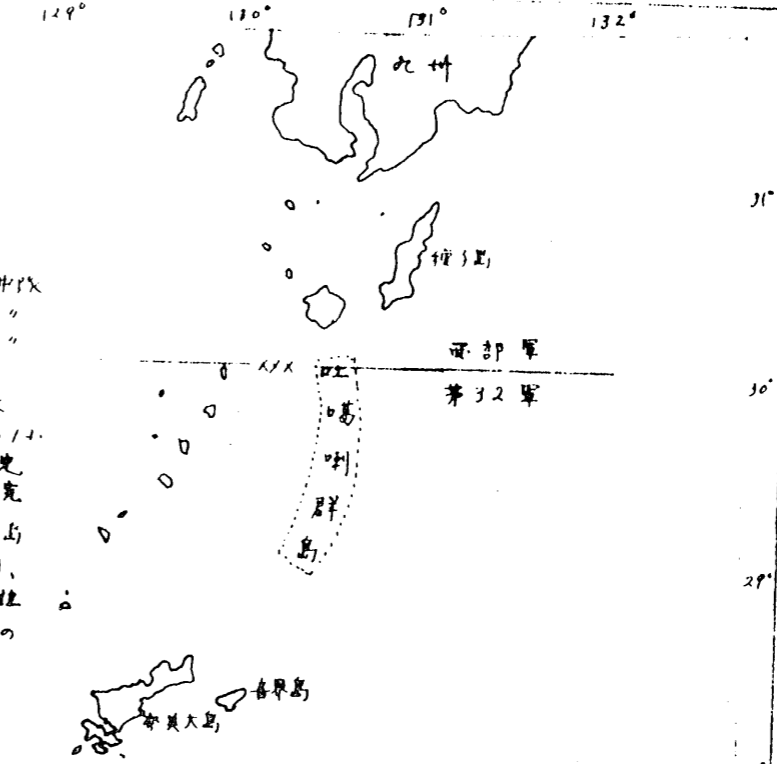
奄美守備隊

長 井上大佐

- x 21MRs
- 特設警備隊 第210中隊
- " 第221 "
- " 第222 "

- 重砲兵第6連隊
- x 第75飛行場中隊
- 軍医隊 第17中隊(-1/1)
- 奄美大島陸軍病院
- x 徳之島陸軍病院

◎ 北緯30°10'より与論島(合計)に亘る吐噶喇、奄美群島の防衛に徳之島の航空基地の設定



大東島連隊

長 深谷中佐

- 大東島支隊
- 特設警備隊 第211中隊
- 照修4中隊
- ◎ 南北沖繩諸島の防衛

北大東島  
 南大東島

沖大東島  
 (77島)

第19航空地区司令部

司令官 菊柳中佐

- 第19航空地区司令部
- 第50飛行場大隊
- 第3飛行場中隊
- x 第129飛行場設定隊
- 軍医隊 第6中隊
- ◎ 与論島及び沖繩本島の航空基地の設定

沖繩群島

軍直轄部隊

- x 27AABns
- x 22A通信隊
- x 22A兵隊防務隊
- 軍医隊 第7中隊(-1/1)
- x 沖繩陸軍病院

軍区司令部

第1船務輸送司令部沖繩支部

第2節 捷号作戦準備

1. マリアナ失陥とその影響

(1) 大本營の敵情判断

- a. 比島の奪回……………公算最大
- b. 南西諸島及び台湾方面の攻略……………公算大
- c. 支那本土との連けい……………公算大
- d. 本土島周辺の島嶼攻略……………公算あり

(2) サイパン失陥直後における大本營の処置

(主として第32軍に關係ある事項)

- 18Aを2HAより除去(6.17)
- 9D、68B、361等の釜山集結(6.20)
- 9D、18A、15MRB、27TKR等を32Aに編入  
(6.26)
- 28Dの大本營直轄(2.26)
- 小笠原兵団の戦斗序列下(6.26) 任務付与(7.1)
- 28D(-361)を32Aに編入(6.30)
- 361を32Aに編入(7.1)
- インパール作戦の中止決定(7.4)(サイパンとは直接  
關係はない)
- 26D、62Dを大本營直轄(7.4)
- 24Dを大本營直轄(7.5)



○28Dを32Aに編入(7.18)

○浙東沿岸要地の占領を支那派遣軍総司令官に命令  
(7.18)

○64MBB、23SA等を32Aに編入(7.20)

○62D、59MBB、60MBB等を32Aに編入  
(7.24)

以上のほか各方面強化のため戦闘序列に相当の変更があつた。  
東条内閣はサイパン失陥より総辞職し小磯内閣が誕生するに  
至つた。

## 2、第32軍の台湾軍編入

第32軍は5.5大本営直轄より西部軍に編入されたが、7.  
11台湾軍に編入された。

防衛総司令官の防衛担任地域と台湾軍作戦地境との境界は北  
緯30度10分の線とされた。

## 3、捷号作戦準備の発令

大本営はマリアナ失陥後の作戦計画として捷号作戦準備を7.  
24発令し、その要領を指示した。

○大本営命令(19.7.24)

1. 大本営の企図は本年後期米軍主力の進攻に対し決戦を指  
導し其企図を撃退するに在り。

国軍決戦の方面を本土、連絡圏域及び比島方面と予定し、

決戦実施の要域及び之が発動は大本営之を決定す。

2. 南方軍総司令官、台湾軍司令官、防衛総司令官、第5方  
面軍司令官及び支那派遣軍司令官は夫々其の任務達成の為  
海軍と協同して速に決戦準備を整うべし。

爾後の作戦指導に關する大本営の作戦指導大綱別冊の如し  
3. 参謀総長は決戦実施の為別に計画する処に準拠し航空関  
係部隊の運用(指揮転移を含む)並に之が準備等に關し関  
係軍司令官に指示することを得

4. 細項に關しては参謀総長をして指示せしむ

○大本営の指示(19.7.24)

大陸命1081号に基き左の如く指示す

1. 南方軍総司令官、台湾軍司令官、防衛総司令官、第5方  
面軍司令官及び支那派遣軍司令官は夫々下記を目途として  
決戦準備を概成し爾後成るべく速に之を完整するものとす

比島方面決戦 (捷1号作戦)

連絡圏域方面決戦 ("2")

本土(北海道を除く)方面決戦 ("3")

北東方面決戦 ("4")

2. 各軍司令官は左に準拠して地上兵力の運用を計画準備す  
るものとす

(イ) 捷号作戦発動に即応する大本營の兵力運用計画の大綱  
別紙第1の如し

(ロ) 南方軍総司令官、台湾軍司令官、防衛総司令官は前項  
の兵力運用計画に拠る準備兵力を随時他方面に転用し得  
る如く準備するものとす

(ハ) 捷3号作戦に方り第36軍は之を防衛総司令官の隷下  
に編入を予定す

3、各軍司令官の準備すべき航空作戦に關する陸海軍中央協  
定別冊の如し

4、各軍司令官は別紙第2其1、乃至第3の計画に基き其隷  
下(指揮下)航空部隊を速に転用し得る如く準備するもの  
とす

5、作戦企図の秘匿に關しては厳密なる注意を要す

別紙第1

捷号作戦の為の状況に既応する兵力運用計画の大綱

作戦方面	転用準備兵力	待機位置	兵力準備担	使用予定方面
捷1号	1旅団基幹	北部比島	南方軍	台湾又は南西諸島方面
捷2号	1旅団基幹	台湾	台湾	北部比島又は南西諸島方面
捷3号	(1) 1支隊 (歩兵3大隊基幹) (砲兵1大隊)	鹿児島附近	防衛総司令官	南西諸島方面

捷3号	(2) 1支隊 (歩兵3大隊基幹) (砲兵1大隊)	姫路附近	防衛総司令官	小笠原諸島方面
捷1号 捷2号	約1師団	上海附近	大本衛	北部比島又は南西諸島 台湾方面
捷3号 捷4号	約47師団	弘前附近	大本衛	本州東北部又は 北海道方面
備考	本計画は概要を示し当時の状況により多少変更することあり			

(以下略)

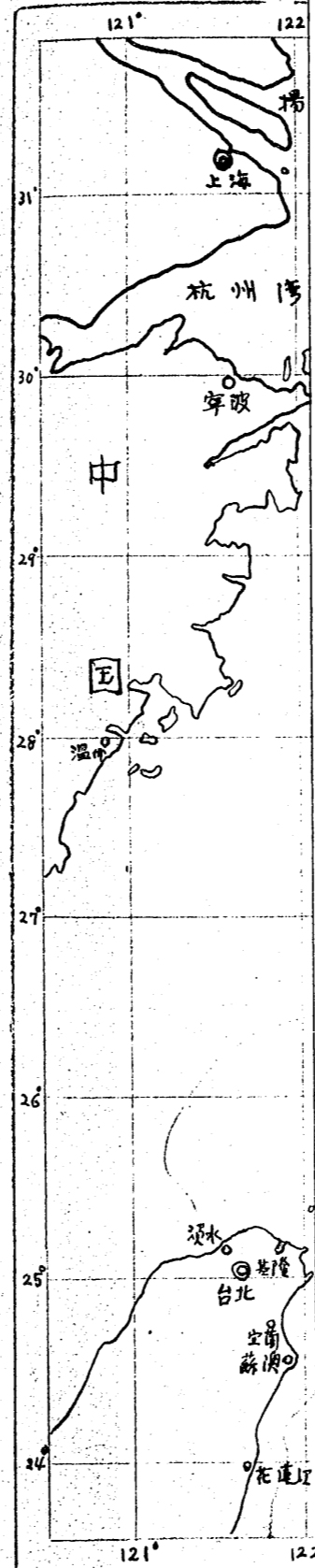
4、第32軍の新配備と作戦準備

前述のように6月下旬以来第32軍に編入された各部隊は大なる支障なく7月中旬より9月上旬にわたり南西諸島に到着し新配備についた

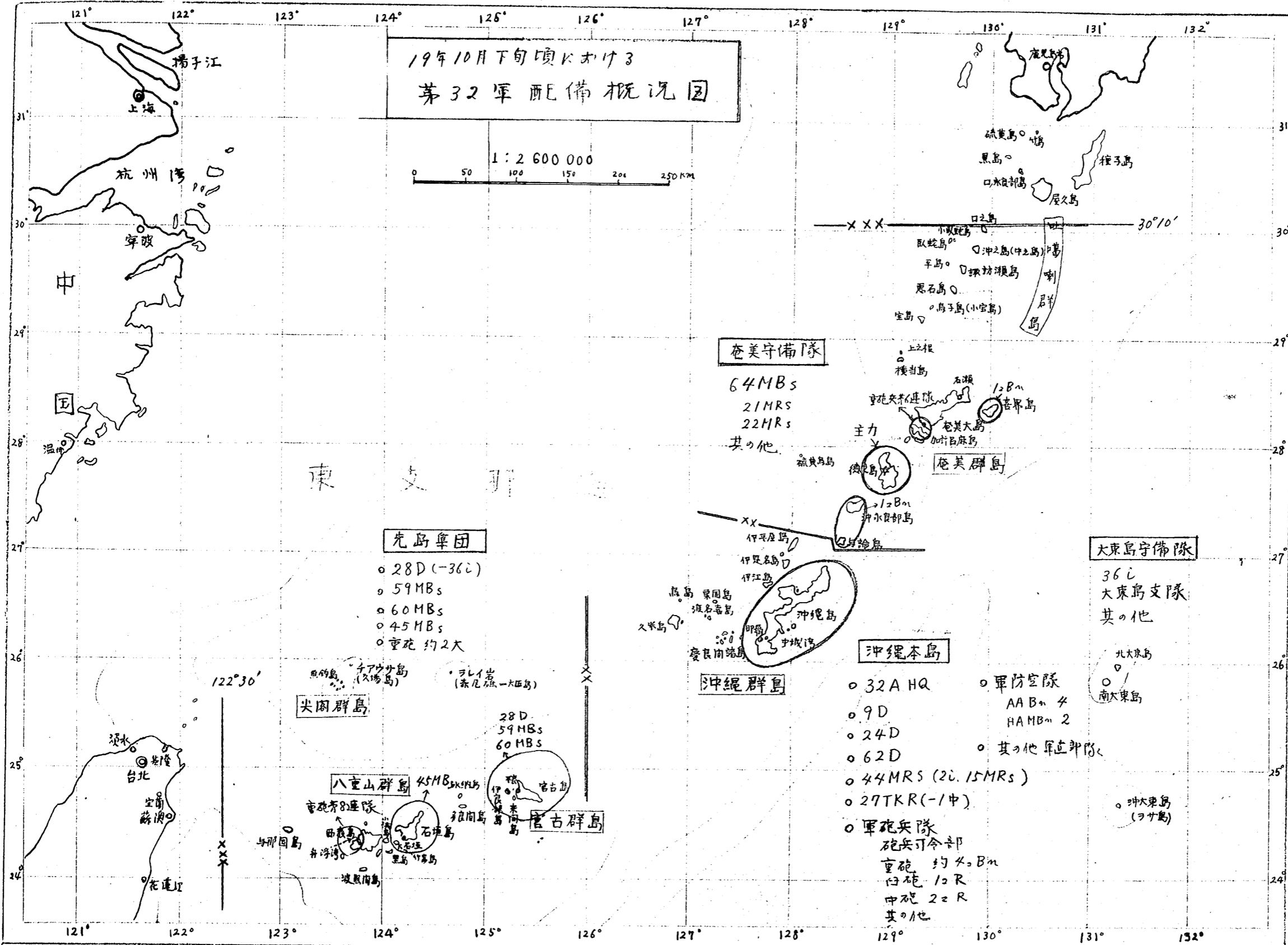
10月下旬における第32軍の全般配備は挿図第7のようである。

沖縄本島の配備は挿図第8のようである。

插图第7



挿図第7



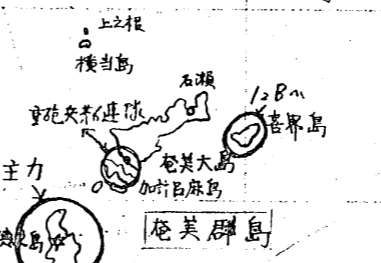
19年10月下旬頃K向け3  
第32軍配備概況図

1:2 600 000  
0 50 100 150 200 250 KM

東 支 那 海

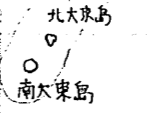
奄美守備隊

- 64MBs
- 21MRS
- 22MRs
- 其の他



大東島守備隊

- 36C
- 大東島支隊
- 其の他



沖縄本島

- 32A HQ
- 9D
- 24D
- 62D
- 44MRS (20.15MRs)
- 27TKR (-1中)
- 軍砲兵隊
- 砲兵司令部
- 重砲 約40Bm
- 臼砲 10R
- 中砲 20R
- 其の他

沖縄群島

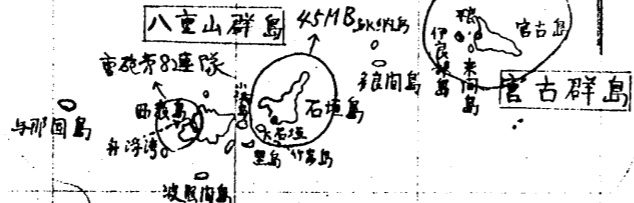


先島集団

- 28D (-36C)
- 59MBs
- 60MBs
- 45MBs
- 重砲 約2大

尖閣群島

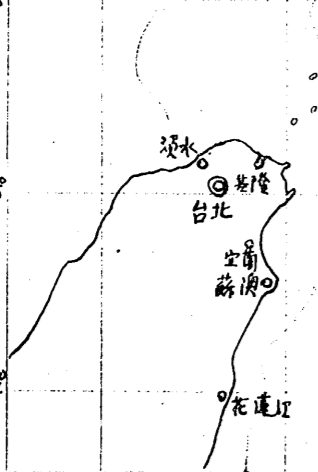
- 子アウ少島 (久場島)
- カレイ岩 (赤尾石点一大正島)



八重山群島

- 45MBs, 54MBs
- 重砲 8連隊

宮古群島



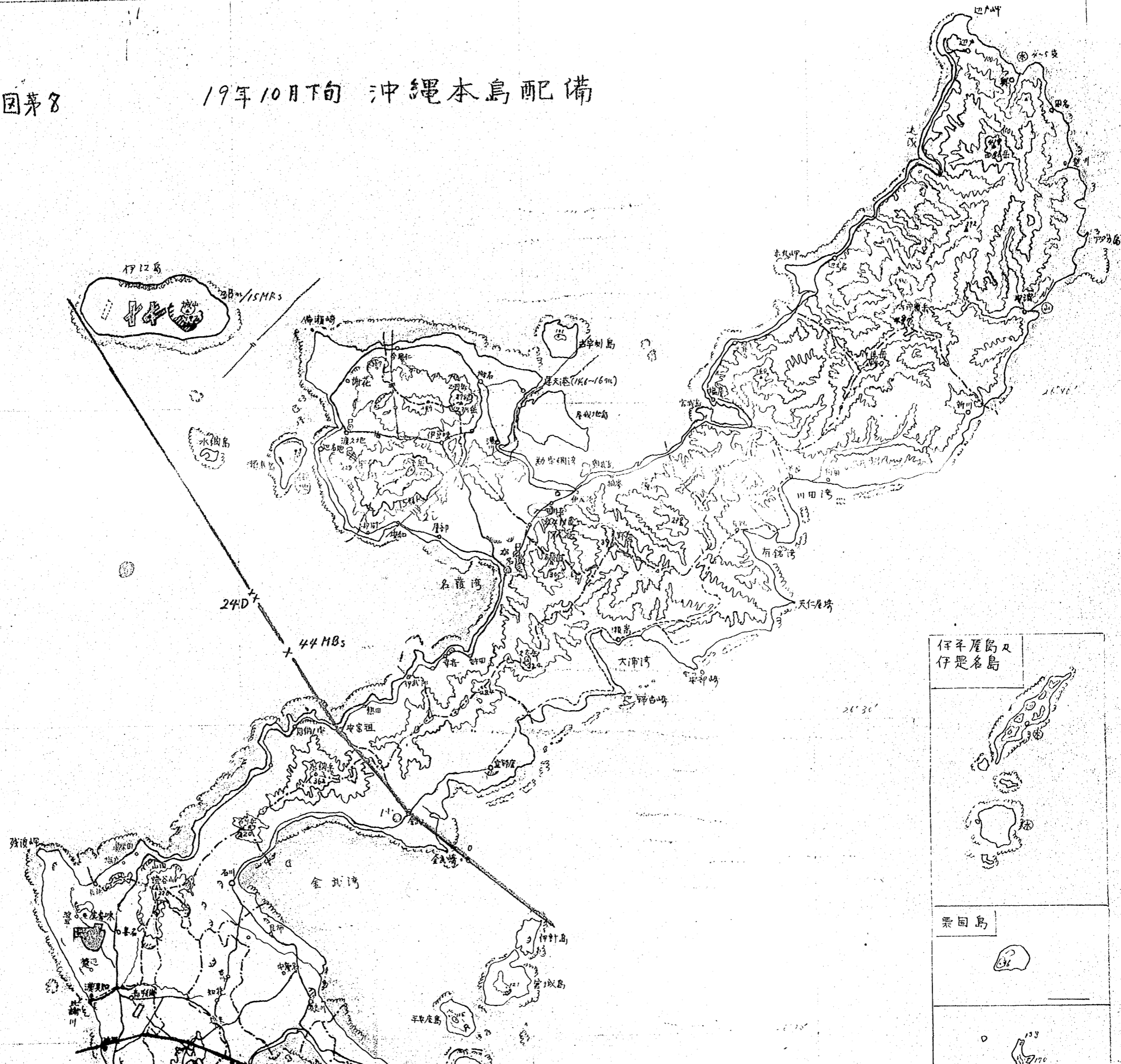
127°40'

127°50'

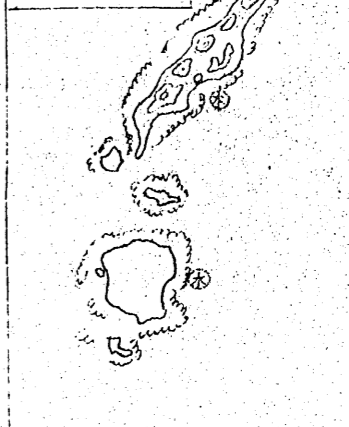
128°

挿図第8

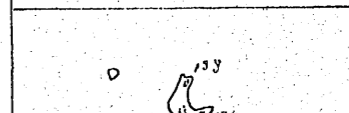
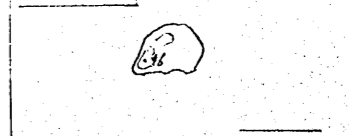
# 19年10月下旬 沖縄本島配備

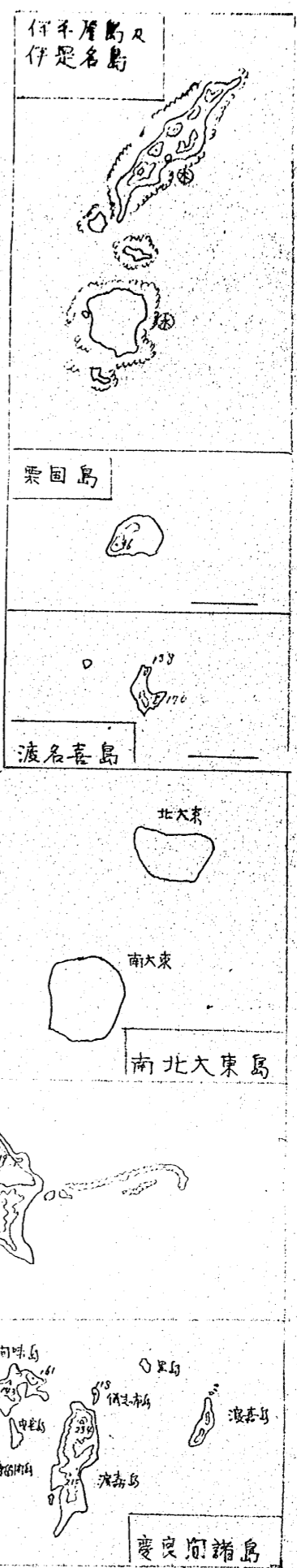
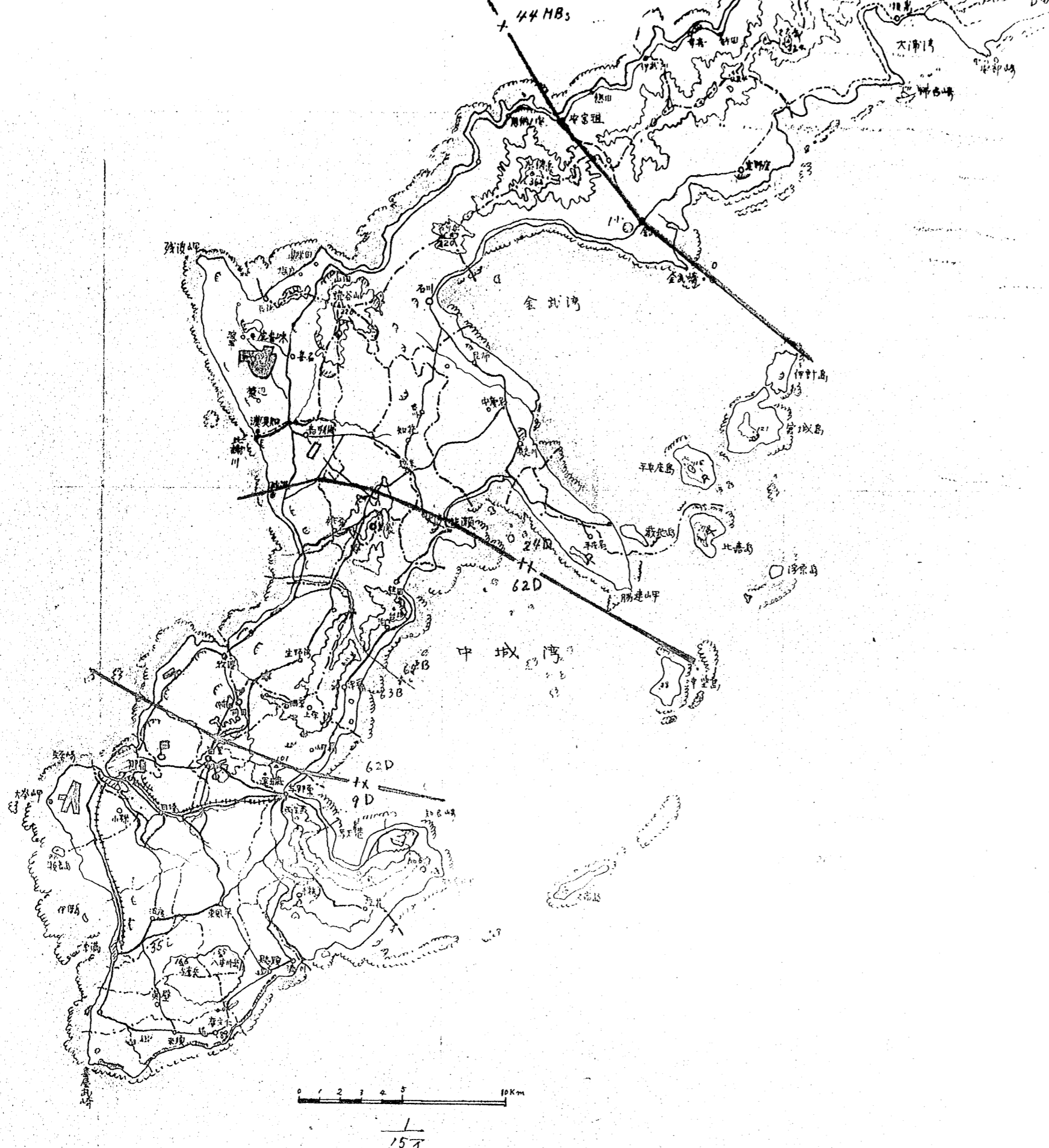


伊平屋島及  
伊是名島



栗田島





0 1 2 3 4 5 10 Km  
1/15万

127°20'

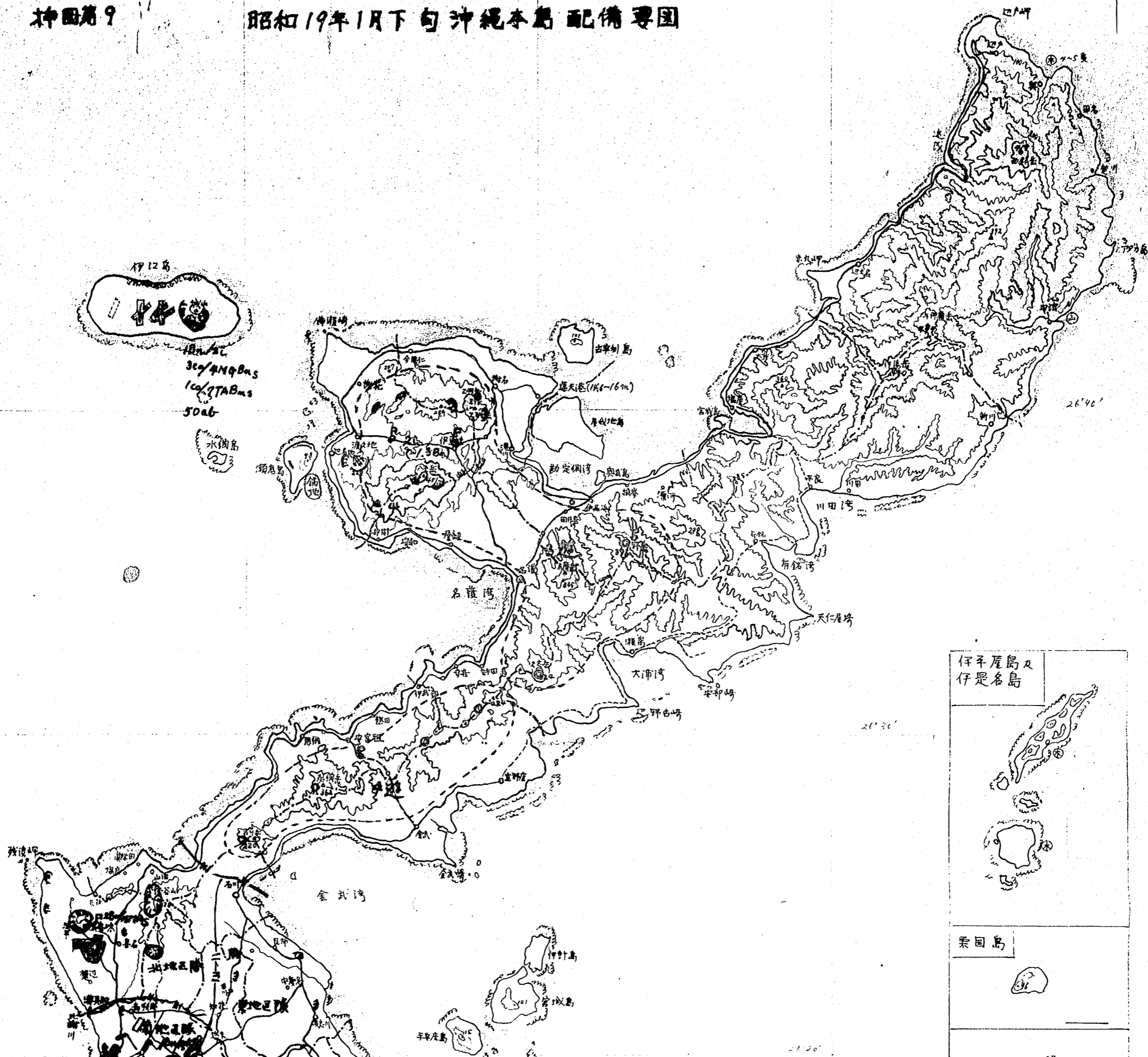
127°50'

128°

128°10'

神田第9

# 昭和19年1月下旬沖縄本島配備要図



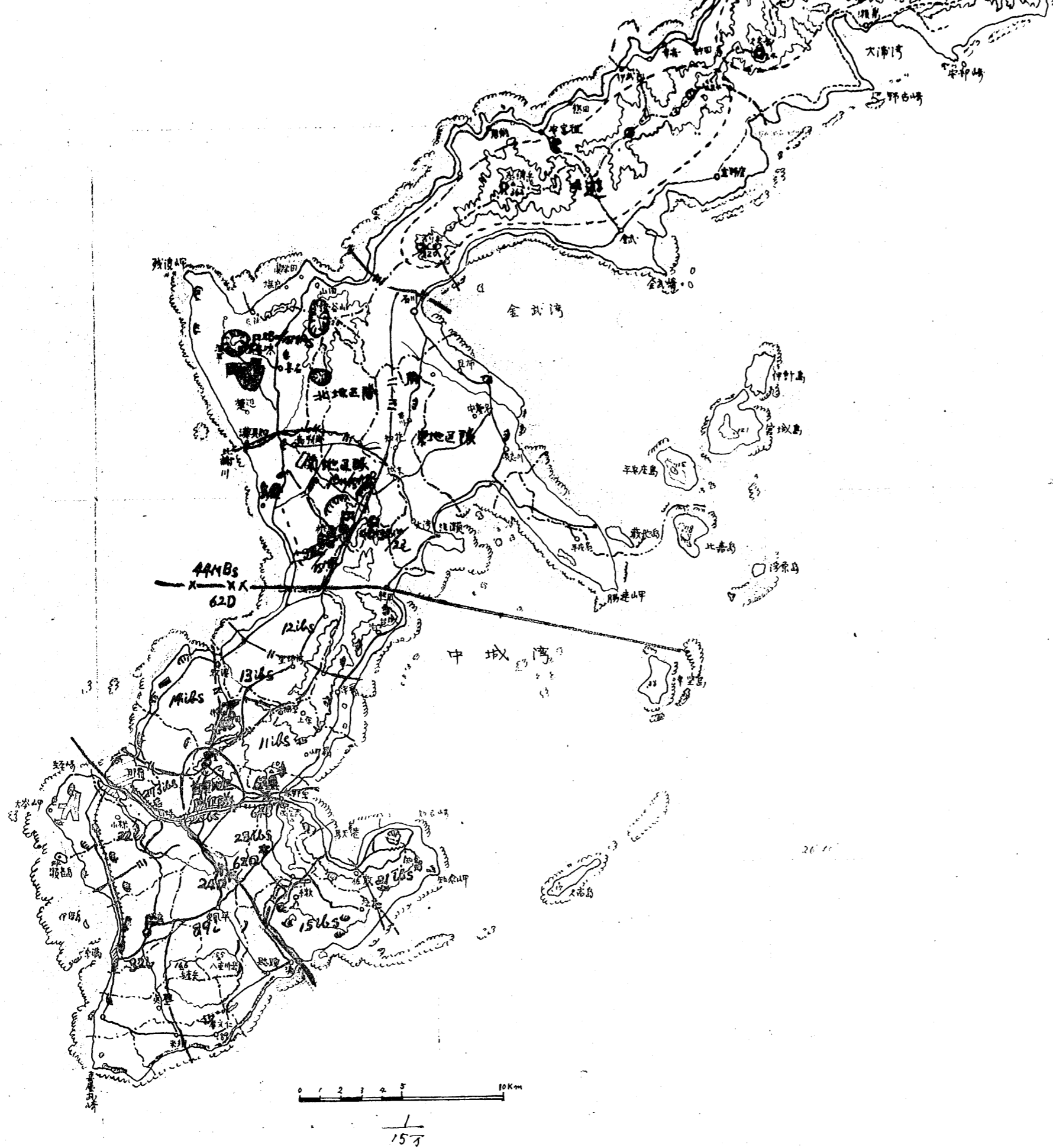
1712号

18m/s  
30y/4MGBs  
100/2TABms  
50ab

水鏡島

伊平屋島及  
伊是名島

栗園島



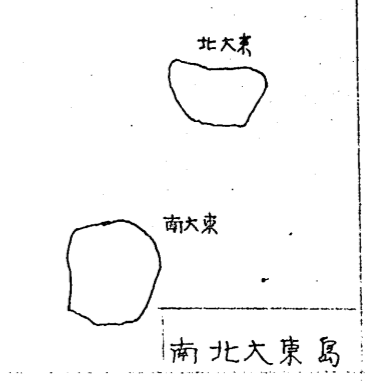
伴平屋島及  
仔是名島



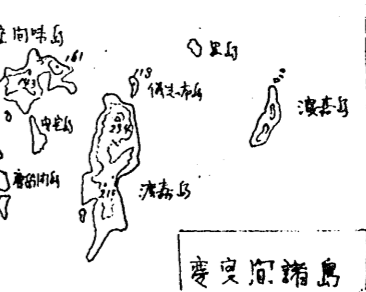
栗園島



渡名喜島



久米島





127°20'

127°50'

128°

128°10'

挿図第10

# 昭和20年3月末沖縄本島配備要図

伊江島後行場は  
20年3月破壊  
伊江島



## 沖縄本島軍隊区分の大要

- 第32軍司令部
- 第24師団
- 第62師団
- 独立混成第44旅団 (津堅島部隊を含む)
- 国頭支隊 (伊江島遊撃隊を含む)
- 軍砲兵隊
- 高射砲隊
- 船舶関係部隊 (海上挺進戦隊を含む)
- 軍直轄部隊
- 特編部隊の編成
- 後方業務部隊



伊平屋島及  
伊是名島

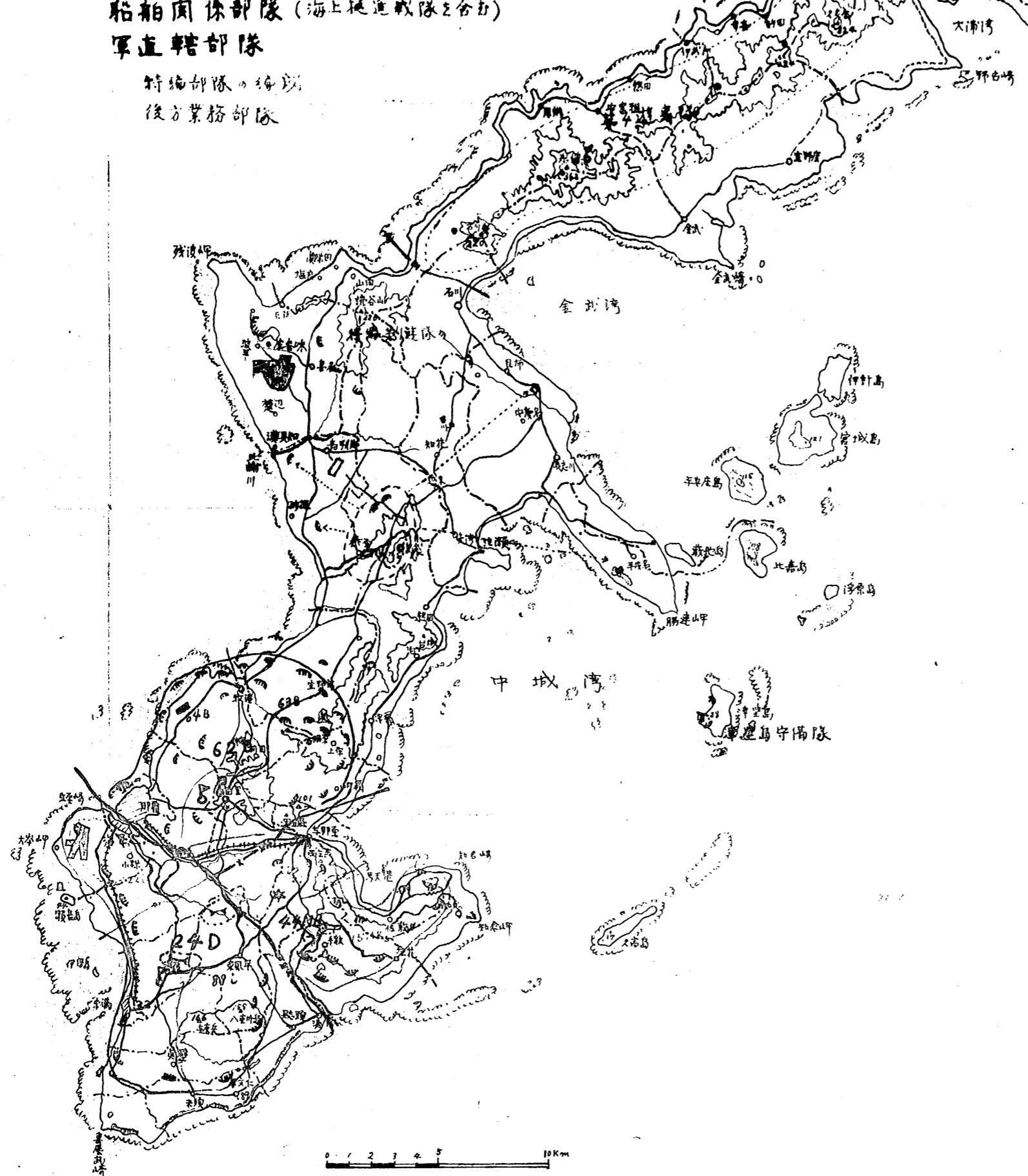


粟国島



船泊回休部隊 (海上挺進隊を含む)  
軍直轄部隊

特編部隊の編成  
後方業務部隊



伊平屋島  
伊是名島



栗田島



渡名喜島



北大東



南大東



南北大東島

久米島



慶良間諸島

### 第3節 比島作戦（捷1号作戦）

#### 1、決戦方面の概定

9月15日ペリリュー島、モロタイ島に連合軍上陸し愈々比島上陸の戦略態勢を概成した。大本営は9月22日決戦方面概定の命令を発した。

大本営命令（19・9・22）

- 1、大本営は決戦方面を比島方面と概定し決戦の時期を10月下旬以降と予定す
- 2、南方軍総司令官、支那派遣軍司令官、台湾軍司令官は概ね10月下旬を目途として夫々其任務達成の為作戦準備を整へべし
- 3、細項に関しては参謀総長をして指示せしむ

#### 2、捷1号作戦発令

10月17日「0800敵の一部はレイテ湾スルアン島に上陸を開始せり」の報に接し連合艦隊司令部は「捷1号作戦警戒」を下命

10月18日大本営は決戦実施の命令を発した。

大本営命令（19、10、18）

- 1、国軍決戦実施の要域は比島方面とす
- 2、南方軍総司令官は海軍と協同し比島方面に来攻する米軍主力に対して決戦を指導し其企図を破摧すべし

3、支那派遣軍総司令官、第10方面軍司令官は勉めて前項の  
決戦指導を容易ならしむべし

4、細項に関しては参謀総長をして指示せしむ

### 3、レイテ作戦の放棄

12.19第14方面軍は第35軍司令官にレイテ作戦中止の  
命令を発した。

### 第4節 第32軍より9Dの抽出

#### 1、台北会談

レイテ決戦の最中11.4台北において大本營服部大佐と10HA  
軍(参謀長以下)及第32軍(八原参謀)間に第32軍より1コ  
師団抽出に関する会談がなされた。

第32軍参謀八原大佐の携行した第32軍司令官の意見は次のよ  
うである。

- 1、沖縄本島及宮古島を共に確実に保持せんとする方針なら  
ば軍より1兵団を抽出するは不可なり
- 2、軍より1兵団を台湾方面に転用し更に他の1兵団を軍に  
充当する案ならば後者を台湾方面に充当するを可とすべし
- 3、軍より若し1兵団を抽出するとせば宮古島若しくは沖縄  
本島の何れかを放棄するを要す
- 4、大局より観察し比島方面の価値に鑑み第32軍の主力を  
真に重要と判断せらるる方面に転用するを可とすべし

#### 2、9Dの抽出

11月中旬1兵団を抽出することになり第32軍は9Dを選定し  
た。

9Dは12月中旬より1月上旬にわたり台湾に移駐した。

#### 3、第32軍の9Dの抽出に伴う新配備

挿図第9のようである。

第5節 大本營の新作戦方針と第32軍の配備

1、帝国陸海軍作戦計画の大綱

19.1.20 策定

2、第10方面軍(第32軍)に対する新命令

大本營命令 (20.2.3)

1、大本營の企図は進攻する敵特に主敵米軍を撃破して皇土を中核とする国防要域を確保し以て敵の戦意を破摧するに在り。

2、第10方面軍司令官は来攻する敵を撃破して台湾及び南西諸島を確保し帝国本土を中核とする要域に於ける全般作戦の遂行を容易ならしむべし

任務達成の為準拠すべき要綱下の如し

(1) 台湾及び南西諸島に対する敵の空海基地の推進を破摧し以て帝国本土、朝鮮及び支那沿岸方面に対する敵の来攻を封殺するを主眼とす

(2) 確保すべき要域中特に台湾及び沖繩本島に在りては九州、南朝鮮及び揚子江下流要域と相俟ち東支那海周辺における機略ある航空作戦遂行の拠点ならしむ

3、東南部支那沿岸方面作戦に方りては航空部隊を以て敵を洋上に撃破するに努む

4、関係海軍指揮官と協議の上陸上作戦に関し台湾及び南西

諸島所在海軍部隊中所要の兵力を指揮することを得

海上交通保護に関し海軍に協力す

5、航空作戦の爲相互協議の上其航空部隊を支那派遣軍作戦地域及び防衛総司令官の防衛担任地域内に位置せしめ又其指揮関係を律することを得

6、船舶司令官と協議の上作戦地域内に在る船舶部隊を指揮することを得

但し船舶司令官の計画実施する船舶全般の運用を妨ぐることをなし。

7、第10方面軍作戦地域故の如し

8、細項に関しては参謀総長をして指示せしむ

3、第32軍の最後配備

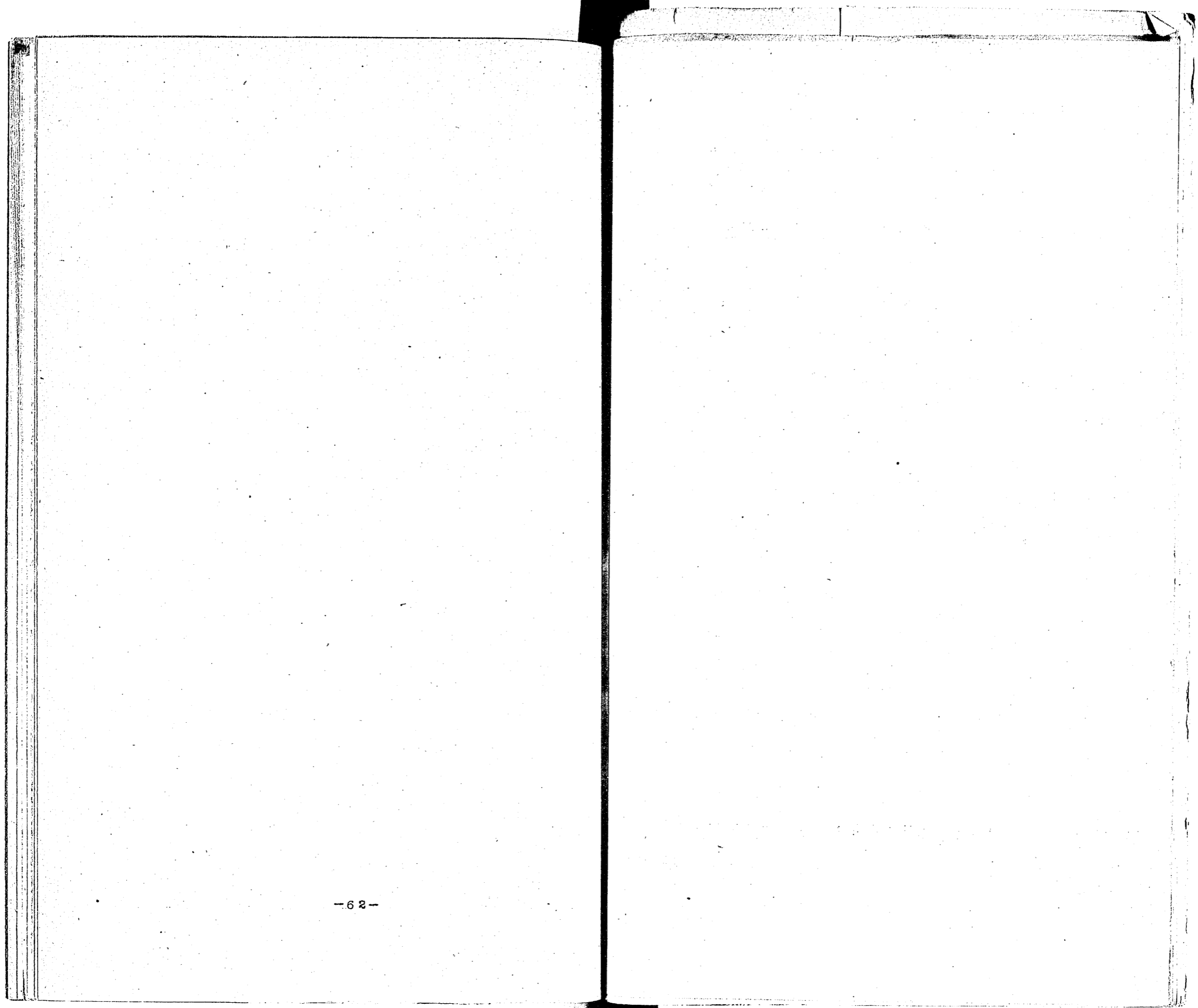
大本營においては以上のような新作戦方針を樹立したが、第32軍は1月26日44MB日を知念半島に移動せしめ島尻地区の防備を強化した。配備は挿図第10のようである。

伊江島飛行場の破壊(3月中旬)

4、第10方面軍の指導

作戦参謀の派遣

中飛行場地区の確保



沖縄作戦における

# 第32軍作戦準備年表

注：本表は防衛研修所の研修旅行の参考資料として作製したものである。  
内容は未だ調査不十分のところもあり検討を要するものがある

昭和36年6月20日 防衛研修所

年 月	国際情勢	連合軍作戦情勢(太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢(32Aを以て)
19 年 (一九四四年) 1 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4. 米ソ貿易協定成立</li> <li>7. 自由印度仮政府ビルマへ進出</li> <li>26. アルゼンチン対枢軸断行</li> <li>27. リベリア対日宣戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 連合軍 グンビロ岬(東部ニューギニア)上陸</li> <li>10. 連合軍機 クリスマス島に米襲</li> <li>11. 連合軍機 台湾に米襲</li> <li>30. 米機動部隊 マーシャル群島に米襲</li> <li>31. 連合軍グリーン島に米襲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8. 新防空法実施</li> <li>18. 緊急国民勤労働員方策等綱及び学徒勤労働員方策等綱を 発表</li> <li>24. 1号作戦(東漢、粵漢打通)下令</li> </ul>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ソ連地方分権制度を決定</li> <li>16. アルゼンチンにクーデター勃発</li> <li>27. スエーデン、ソ連に領空侵犯を抗ギ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 連合軍ケゼリン及バルオット島に上陸 " マロエラップ及ウオッジエを砲撃</li> <li>16. 連合軍グリーン島に再度上陸</li> <li>17. <u>連合軍トラックを大空襲す</u></li> <li>19. 連合軍ブラウン環礁内に上陸</li> <li>22. 連合軍ウオッジエを砲撃</li> <li>23. <u>米機動部隊 マリアナを空襲</u></li> <li>29. 連合軍アドミラルティ諸島ロスネグロス島に上陸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. グリーン島に逆上陸</li> <li>4. ケゼリン及バルオット島舟備隊玉砕</li> <li>5. ビルマ国境 トングバナーを占領</li> <li>17. <u>トラック空襲により大損害を受く</u></li> <li>19. 東條内閣改造</li> <li>21. <u>東條、嶋田両大将それぞれ陸海両統帥部長に就任</u></li> <li>25. 決戦非常措置等綱を決定</li> </ul>
3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. スエーデン英に領空侵犯を抗ギ</li> <li>4. 米、対アルゼンチン断交</li> <li>13. ソ連、伊バトリオ政権を承認</li> <li>14. バトリオ政権フィンランドと外交停止</li> <li>22. 独、ハンガリーに保障進駐</li> <li>30. 日ソ協定調印</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2. 連合軍空挺部隊北ビルマに侵入</li> <li>6. 連合軍タラセア半島(ニューブリタン島)に上陸</li> <li>15. 連合軍ロレカウ及ウエミール島に上陸</li> <li>19. ノ軍、ドニエストル河を渡河</li> <li>22. 連合軍バテル島に上陸</li> <li>24. 連合軍ウボン島に上陸 所在員玉砕</li> <li>31. <u>米機動部隊 パラオ及びヤップに米襲</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7. 学徒勤員実施要領決定</li> <li>8. <u>ウ号作戦(印度インパール攻畧)開始</u> タロキナ攻畧作戦開始</li> <li>20. ビルマ国境 トンザン付近を占領</li> <li>22. <u>台湾軍、第32軍戦斗序列下令</u></li> <li>23. 印度国境を突破 マニポール侯国へ突入</li> <li>31. 古賀連合艦隊司令長官 タバオ方面で殉戦</li> </ul>



年	月	国際情勢	連合軍作戦情勢(太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢(32Aを中心)
19年 (一九四四年)	4月	1. 米機スイスを爆撃 3. スイス、米に爆撃を抗戦 サルバドルに革命勃発 12. ソ連外相モロトフ日本の平和轉枝を拒否	1. 米機動部隊トラック及びパラオを空襲 3. ソ軍ルーマニア領に侵入 22. <u>連合軍ホーランドヤ及びアイトベ付近に上陸</u>	1. 第32軍統帥発動 6. 印度コロマを占領 8. 独ソ和平斡旋をソ連に申入れ 17. 京漢打通作戦開始 19. 鄭州を占領 24. <u>第85兵站警備隊大東島に上陸</u>
	5月	6. ガンジー釈放さる 20. 米、共産党解党 22. ソ連、ブルガリアに最後通牒を發す 30. エクアドル革命成功	17. 連合軍機動部隊ジャワに発動 ワクデ及びサルミに上陸 18. 米機動部隊南島島に発動 19. ミートキーナに落下傘部隊降下飛行場占領 24. 米機動部隊グロムを空襲 27. <u>連合軍ビヤク島に上陸</u>	1. 許昌を占領 3. 独立混成第44、45旅団独立混成第21連隊等第32軍に編入 5. <u>第32軍西部軍の隷下に編入命令(転移10日)</u> <u>内地軍に作戦任務付与命令</u> 9. 京漢打通成る、湯恩伯軍主力潰滅 <u>西部ニューギニアにおける確保要線の後退を發令</u> 25. <u>大東島配備(1次)完了</u> 25. 洛陽を占領 27. 京漢打通作戦開始
	6月	5. 伊国王退位 17. 米副大統領ウォーレス重慶到着 フィンランド独立 30. 米対フィンランド断交	5. 独軍ローマを撤退 6. <u>連合軍北松に上陸</u> 11. 米機動部隊マリアナ諸島に発動 15. <u>連合軍サイパン島に上陸、硫黄島及び父島を空襲</u> 16. B-29にて北九州を空襲	8. 渾作戦開始 13. 湘軍作戦決戦用発令 15. 湘軍決戦発動 18. 長沙を占領 26. 衡陽飛行場を占領 28Dを大本営直轄 9D、15MRs、27TKR等を第32軍編入命令

年	月	国際情勢	連合軍作戦情勢 (太平洋を中心)	日本国内及日本軍作戦情勢 (32Aを中心)
19 年 ( 一 九 四 四 年 )	6 月		27. 米極東空軍部隊の創設を發表	27. 重慶第7戦区進攻作戦開始 29. 44MBs, 45MBs等乗船の富山丸雷撃を受け沈没 30. 28Dを第32軍に編入 学童疎開実施要綱閣議決定
	7 月	20. 泰ヒファン内閣総辞職 25. ソ連、ポランド協定成立	2. 連合軍ヌーキヤ島に上陸 (西部、ノキヤ) 8. B-29 九州西北部を空襲 19. 桂軍サイローを撤退 21. 連合軍グワム島に上陸 23. 連合軍テアン島に上陸 29. B-29 大連、鞍山、奉天を空襲 30. 連合軍ヌーキヤ双島に上陸	1. 笠原兵团に対し任務付与 36iを第32軍に編入、長少将作戦援助のため那霸着 4. 仁パール作戦中止決定 26D, 62Dを大本营直轄 7. サイパンの守備部隊玉砕 8. 長勇少将を第32軍参謀長に就任、北川少将は台湾軍参謀副長へ 10. 第18軍アイタベ作戦開始 11. 第32軍を台湾軍に編入命令 (転移15日) 9D那霸上陸 15. 防衛総司令官戦時警備を実施 17. 学童疎開要綱を發表 18. 浙東沿岸要地の占領を支那派遣軍団司令官に命令 24Dを第32軍に編入 サイパン失陥を公表、東條内閣総辞職 (22. 小磯内閣) 参謀総長梅津大將、関東軍司令官山田大將、教育総監杉山元帥就任 20. 64MBs, 235A等を第32軍に編入 24. 捷号作戦準備下令 62D, 59MBs, 60MBs等を第32軍に編入命令 7月下旬 第36連隊大東島に上陸

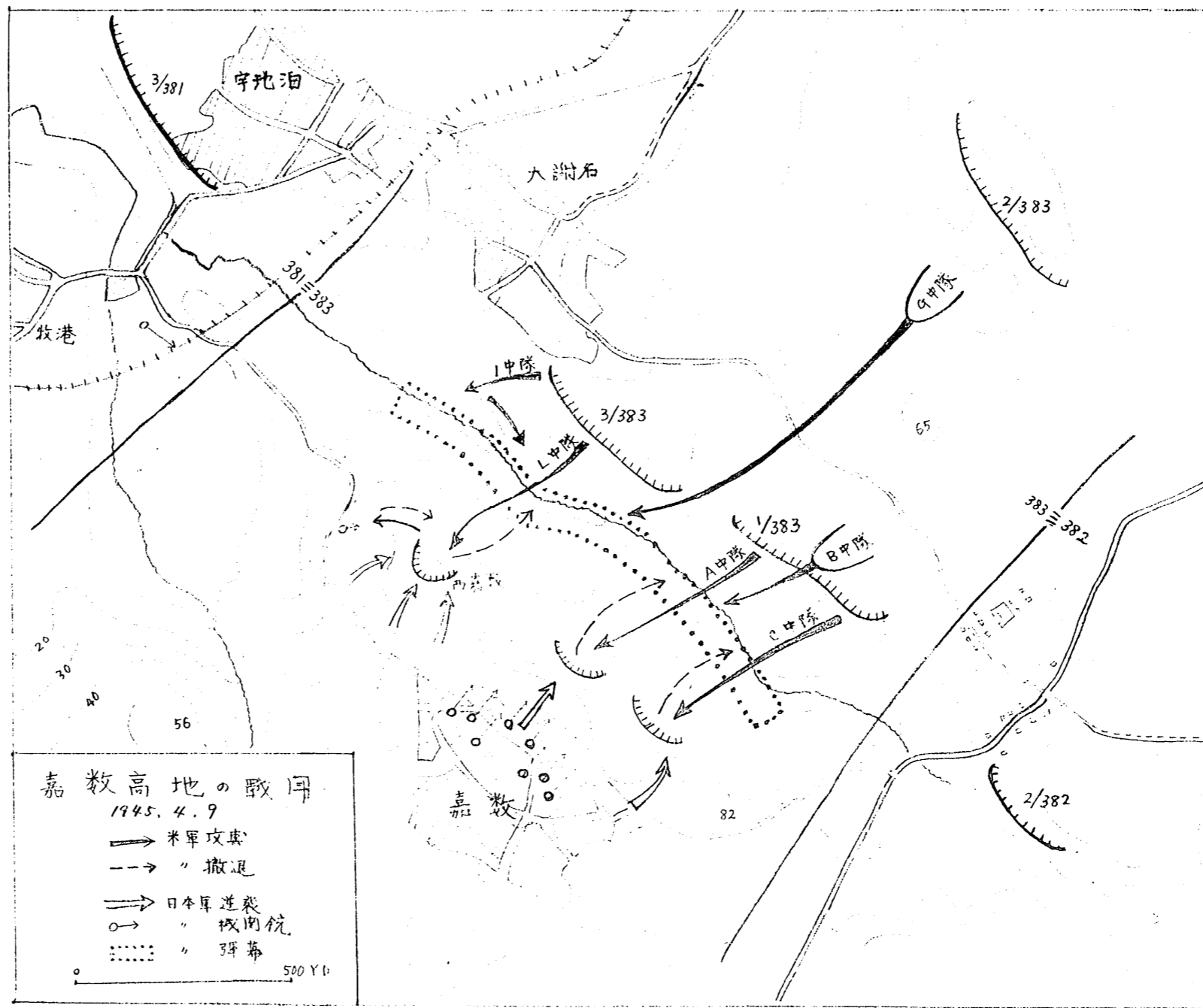
	国際情勢	連合軍作戦情勢(太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢(32Aを中心)
19年 8月 (一九四四年)	2. 泰新内閣成立 3. トルコ 対独断交 23. ルーマニア 対ソ休戦を受諾 28. フルガリヤ 対米英休戦を受諾 29. ドゴール 臨時政府主席に就任	1. 連合軍 ニューギニア オース島に上陸 4. B-29 鞍山、大連、本溪湖を空襲 11. B-29 南部朝鮮、九州、山陰地方を空襲 12. B-24 父島を空襲 14. B-24 台北、高雄を空襲 20. B-29 九州、中国地方を空襲 21. 同上 27. B-29 鞍山を空襲 28. マルセイユ及びソロン陥落 29. ハリ陥落 米軍 マルヌ河を渡河 31. 連合軍機 小笠原 硫黄島方面を空襲 米機 台湾を空襲	1. 第32軍司令部改変 2. 軍令部総長に及川大將就任 4. ミトキーナ守備隊長等玉砕 5. 24D 那霸に上陸 8. 衡陽を攻畧 10. 牛島中將 第32軍司令官に就任、渡辺中將は参謀本部付へ 12. 台湾軍にて沖繩作戦の兵棋演習を実施(12-15) 19. 62D 那覇上陸 22. 金華南方新作戦開始 沖繩疎開学童乗船 対馬丸 雷爆を受け沈没 23. 学徒勤労令、女子挺身勤労令 制定 28D 宮古島上陸を完了 27. 麗水を攻畧
9月	2. スウェーデン 対ソ休戦を受諾し 対独断交 5. ソ連 対アルガリヤ宣戦 8. フルガリヤ 対独宣戦 9. アルゼンチン米州委員会を脱退 22. 全北島に戒厳令施行 23. 北島 対米英宣戦	3. 米軍 リヨンに進入 8. B-29 鞍山、本溪湖を空襲 9. 米機 ダバオを空襲 15. 連合軍 ペリリュー島及びモロタイ島に上陸 17.     「 アンガウル島に上陸 21. 米機 マニラを空襲 26. B-29 鞍山、大連を空襲	1. 台湾に徹兵令施行 6. ソ連 マリク大使に遣ソ特使派遣を提議(16日拒否されず) 8. 零陵を攻畧、騰越守備隊玉砕 9. 温州を攻畧 10. 松孟守備隊隊玉砕 16. 第32軍飛行場整備促進命令下達 22. 台湾軍を第10方面軍と改称 梧州を攻畧

	国際情勢	連合軍作戦情勢 (太平洋を中心)	日本国内及日本軍作戦情勢 (32Aを中心)
19年(一九四四年) 9月	23. フィランド対日断交 28. 英チャーチル首相対日戦推進を声明		27. 福州東北に奇襲上陸 グラム及ウテニアン部隊五隊 28. 丹竹を攻襲
10月	4. パタン元帥国民委員会を南独で結成と発表 9. 英ソモスコフ会談開催 15. ハンガリー、対ソ休戦申入 28. ソ連、ブルガリヤ休戦 31. スペイン、仏ドゴール政権を承認	3. 連合軍、モロタイ飛行場の使用を開始 <u>米軍沖縄攻襲作戦を決定</u> 10. 米機動部隊沖縄方面を空襲 12. " 台湾方面を空襲(12-14) 17. 米軍レイテ湾口、スラン島に上陸 20. 米軍レイテ島に上陸 25. B-29 100機九州西部を空襲	1. 帝都防空本部発足 4. 福州を占領 10. 南西諸島大空襲を遂げ那覇首里灰燼 18. <u>捷1号作戦発動</u> 満18才以上の男子を兵役に編入 25. 比島沖海戦、海軍神風特攻隊初めて米艦を攻襲
11月	2. ルーマニア、対日断交 7. ソ連首相スターリン革命記念日演説で日本を侵略国と言明 ブルガリヤ対日断交 9. 米大統領ルーズベルト4選 10. 国府首席汪精衛死去	1. マリアナ基地 B-29 東京を空襲 5. 米艦数機 マニラ、パタンガスを空襲 6. 米機動部隊ルソン全域を空襲 11. B-29 80機九州西部に空襲 21. B-29 九州西部を空襲 22. 連合軍千島松輪島を砲撃 24. マリアナ基地 B-29 100機東京空襲 27. B-29 40機 関東東海を空襲 29. B-29 東京を夜間攻襲	3. サイパン及ウテニアンを空襲 4. 老幼者、妊婦等の疎開実施要綱閣議決定 <u>沖縄より14D抽出に關し台北にて会談</u> 10. 桂林及柳州を占領 14. 第32軍より中迫襲第5.6大隊比島に転用命令 17. 第32軍より14D抽出決定(9Dを避定) 26. 葉挺進隊レイテ島トラック及ウブラウエンに突入 <u>第32軍は9Dの抽出に伴い新態勢を発令</u>

年 月	国際情勢	連合軍作戦情勢(太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢(32Aを中心)
19年 (一九四四年) 12月	3. キリヤク内乱勃発 10. 仏(ドゴール)ソ同盟成立 17. メキシコ、対サルバドル国交停止 21. ルクセンブルグ中立放棄 29. パナマ革命政権樹立	3. B-29 70機 東京を空襲 7. B-29 70機 奉天、大連を空襲 米軍 オルモックに1ヶ師団を揚陸 8. 米艦 硫黄島を砲撃 13. B-29 80機 名古屋方面を空襲 15. 連合軍 ミンドロ島に上陸 18. B-29 70機 名古屋を空襲 19. B-29 30機 九州西部を空襲 22. " 110機 名古屋を空襲 ● 24. 米艦 硫黄島を砲撃 26. 米軍 レイテ及びサマル西島の戦闘終了を 発表 27. B-29 50機 東京を空襲 米艦 硫黄島を砲撃	3. 第10方面 9D 台湾派遣を命ず 5. 第32軍 9D に台湾に進出命令下達 6. 高千穂部隊 ブラウエン、サンパブロ、ドラック、マクロンバンク 降下着陸攻撃 7. 東海、南海大地震 13. 宮崎中將 参謀本部第1部長に就任 19. <u>レイテ地上決戦方針を放棄</u> 26. <u>第6航空軍創設</u> 31. <u>台湾軍司令官現職のお台湾総督に視察</u> <u>12月中旬～20年1月上旬 9D 沖縄より台湾に移動</u>
20年 (一九四五年) 1月	5. トルコ、対日断行 19. 伊ボノミ政権 対日同盟關係 を破棄 20. ソ連、ハンガリー休戦条約成立	2. 英軍 アキアブを占領 3. <u>米機動部隊 台湾 沖縄を空襲</u> B-29 80機 名古屋を空襲 4. <u>米機動部隊 沖縄を空襲</u> 5. 米艦 小笠原及び硫黄島を砲撃 6. B-29 70機 九州西部を空襲 9. <u>米軍 リンガエン湾に上陸</u> B-29 60機 東京、名古屋を空襲	10. <u>9Dを第32軍より除き第10方面軍に編入命令</u> 15. 最高戦争指導会議、 <u>緊急施策措置要領</u> を決定 20. 沖縄果敢防犯強化実施要綱を閣議決定 イラワダ河畔会戦開始、 <u>大本営新作戰計画大綱</u> を決定 21. <u>第32軍司令部 首里師範学校に移転</u> <u>島田新知等 沖縄着任</u>

年	月	国際情勢	連合軍作戦情勢 (太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢 (32Aを中心)
20 年 (一九四五年)	1 月		14. B-29 100機 台湾に60機 名古屋を空襲 16. 米機 南支沿岸を空襲 19. B-29 80機 阪神を空襲 21. } 米機 南西諸島及び台湾を空襲 22. } 23. B-29 70機 名古屋を空襲 24. 米艦 硫黄島を砲撃 25. B-29 10機 シンガポールに磁気機雷を投下 27. B-29 80機 東京を空襲 31. 米軍 マラタ湾口アスクラフに上陸	22. 大本営 84Dを沖繩増派を内奏、翌23日中止 24. 粵漢線打通成3. 25. 最高戦争指導会議「決勝非常措置要綱」を決定 26. 第32軍 44MBsを知念半島に移転の新配備下令  31. 第32軍司令部内にて成敵に関する合同実施
	2 月	4. ルーズベルト、チャーチル、スターリン ヤルタで会談 11. ヤルタ協定成立 ソ連対日参戦を決意 21. メキシコで汎米会議開催 23. トルコ連合国側に参加	1. B-29 100機 シンガポールを空襲 3. 米軍 マラタに進入 4. B-29 90機 阪神を空襲 10. B-29 100機 関東北部を空襲 15. B-29 60機 名古屋を空襲 ソ軍 アタペストを占領 16. 米軍 コロドールに上陸 17. 米艦載機 関東地方を襲撃 19. 米軍 硫黄島に上陸 B-29 120機 東京を空襲 25. B-29 130機 東京を空襲 28. 米軍 パラワン島に上陸	3. 新情勢に基づく任務を台湾軍に付与、陸海軍中央協定 6. 内地防衛昇及び17HAの戦母序列下令、防衛任務付与 大本営天号航空作戦指示 20. 帝國陸海軍作戦計画決定

月	国際情勢	連合軍作戦情勢 (太平洋を中心)	日本国内及び日本軍作戦情勢 (32Aを中心)
3月	1. 印度 サウジアラビア、対日宣戦	1. <u>米機動部隊南西諸島を空襲</u>	3. 陸軍海軍合同の閣下閣
	2. ルーマニア、対日宣戦	4. B-29 150機東京を空襲	6. 国民勤労動員令制定
月	7. ユーゴスラビア、政権成立	5. マラ方面の戦闘終結	9. 仏印武力処理開始
	11. 安南独立を宣言	8. 連合軍マダレーに進出 (18日陥落)	10. 12. <u>第32軍海上特攻研究会実施</u>
	13. カボチヤ独立を宣言	9. 連合軍サンボアンガに上陸	11. <u>海軍ウルシーを特攻々島 (再作戦)</u>
	27. アルゼンチン連合軍側に参加	10. B-29 130機東京を空襲	15. 10HA作戦主任井田参謀 沖縄の配備、増援に関する連絡のため那覇に飛来 (15-18)
		11. " " 名古屋を空襲	16. 小磯首相待旨により大本営の議に列す
		13. " 90機 大阪を空襲	19. <u>第6航空軍南西諸島方面作戦に因り連合艦隊司令長官の指揮下に入る (転領 21日)</u>
		16. 米艦千島松輪島を砲撃	<u>大本営米軍沖縄に上陸するとの判断を存す</u>
		18. <u>米機動部隊九州南部及び四国を襲撃</u>	閣議で軍事特別措置法案を決定
		19. " 阪神及び其方面を襲撃	22. 老河口作戦開始
		23. <u>米機動部隊沖縄を空襲 艦砲射撃を開始</u>	23. <u>第32軍甲号戦備を下令</u>
		25. B-29 130機名古屋を空襲	25.
		26. <u>米軍慶良列島に上陸</u>	26. <u>天号作戦発令</u>
		米軍セブ島に上陸	27. 第32軍 濠洲正面に対する対上陸配備を行う
		27. B-29 150機九州を空襲	28. 連合艦隊司令長官 61Aに對し全力攻撃を命ず
		28. B-29 50機 南門に機雷投下	
		28-29. <u>米機動部隊九州南部を攻撃</u>	
		30. <u>沖縄本島上陸準備砲撃熾烈とす</u>	
		31. <u>米軍那覇西方神山島に上陸</u>	
		B-29 170機九州各地を空襲	



嘉教高地の戦図

1945. 4. 9

→ 米軍攻撃

---→ " 撤退

⇒ 日本軍進襲

○→ " 機関銃

⋯⋯ " 弾幕

500 Yd



